

教 科	理 科	科 目	化学基礎	単位数	1 単位
学 科	環境化学科・ 繊維デザイン科	学 年	3 学年	コース	
学習目標	中学校で学習した内容を基礎として、日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高め、観察・実験などを通して、科学的に探求する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則、化学の果たす役割を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。				
学習内容	学習項目		評価規準【評価の観点】		
	第Ⅱ章 物質の変化 第2節 酸・塩基とその反応 ①酸と塩基 ②酸・塩基の強弱と分類 ③水素イオン濃度と pH ④pH の測定 ⑤中和と塩 ⑥中和の量的関係 ⑦中和滴定と pH の変化 第3節 ①酸化と還元 ②酸化数 ③酸化剤と還元剤 ④金属のイオン化傾向 ⑤酸化還元反応の利用 ⑥電池 ⑦電気分解		・酸と塩基の異なる定義や性質について関心を持ち、分類に関する価数、強弱、具体的な酸と塩基について意欲的に探究しようとする。【A】 ・水素イオン濃度と p H の関係について理解・習得し、酸性・塩基性の定義や身の回りの具体的な物質の p H 測定等の考察を通じて基本的な知識を身に付けている。【B】 ・中和反応について関心を持ち、反応の定義や生成する塩の性質、量的関係、具体的な中和滴定の方法や器具、指示薬等について意欲的に探究しようとする。【C】 ・中和反応の定義を基に、具体的な反応とその量的関係や生成する塩の性質についての実験、さらには中和滴定の具体的方法や滴定曲線に関して考察できる。【B】 ・中和反応の定義とその量的関係について説明できるとともに、中和反応や塩の生成に関する実験、さらには中和滴定実験を行い、器具の扱い方や指示薬の選択についての技能を習得し、合わせて考察結果を的確に表現できる。【A・C】 ・酸化還元反応の利用としての電池に関心を持ち、電池の原理や分類について意欲的に探究しようとする。【A】 ・酸化還元反応の利用としての電池を具体例として、酸化還元反応としての原理、規則性、共通性を見出し論理的に考察できる。【B】 ・酸化還元反応の利用としての電池を説明し、観察・実験の過程や結果を考察し、的確に表現できる。【C】 ・酸化還元反応の利用としての電池を理解し、具体的な電池の構造や反応について基本的な知識を身に付けている。【D】 ・酸化還元反応の定義と酸化数の定義の有効性を基に、具体的な酸化剤や還元剤の反応に当てはめ、事物・現象の中の共通性について考察できる。それらに基づき酸化還元反応を論理的に考察し、的確に表現できる。【B】 ・金属のイオン化傾向について関心を持ち、空気中での反応、水や酸との反応について意欲的に探究しようとする。【A】		
評価の観点	【A】 関心・意欲・態度【B】 思考・判断・表現【C】 観察・実験の技能【D】 知識・理解				
評価方法	定期考査、実験レポート、小テスト、出席状況、課題、授業態度・意欲による総合評価				
教科書等	高等学校改訂新化学基礎（第一学習社）、改訂ネオパルノート化学基礎（第一学習社）				
備 考					

※評価規準は、学習の到達目標でもあります。